

田原本町住民協議会報告書
～ 公共施設のあり方について ～

令和5年7月

目次:

～はじめに～	2
1. 「田原本町住民協議会」実施概要	3
2. 田原本町住民協議会での主な意見	6
3. 公共施設の自分ごと化	8

～ はじめに ～

田原本町長 森 章浩 様

私たちは、3月から6月までの間に施設レビューと3回の住民協議会、計4回の自分ごと化会議に参加し、「公共施設のあり方について」議論を重ねてきました。この会議には、無作為に抽出された1,000名の中から参加を希望した36名と、磯城野高校在学学生の中から田原本町在住の生徒2名が参加して話し合いが進められました。年齢や、職業、経歴も多種多様なメンバーがそれぞれの経験をもとに意見を交わしながら交流を深め、活発な議論を行うことができました。

田原本町の公共施設のうち、特に6施設（中央体育館、やすらぎ体育館、老人福祉センター、さわやか交流センター、ふれあいセンター、町民ホール）を対象として施設レビューおよび住民協議会を開催しましたが、メンバーの中には、今回の協議をとおして初めて存在を知った施設があったとの意見があったり、自らが住む町の公共施設を知るといふ、自分ごと化の第一歩になったのではないかと考えています。

また、限りある時間の中で、有意義に議論を進めるためにも、実際に対象施設を利用したり、見学に行ったり、中には利用者に対してインタビューをしてみたというメンバーもいて、この会議をとおしてメンバー自身の公共施設に対する考え方や意識の部分で、ポジティブな変化が見られたのではないかと思います。

そして、今回の議論をとおして見えてきた「公共施設のあり方」を3つにまとめ、報告書を作成しました。

これらの報告書で示した意見は、住民から行政に対する要望を集約したという意味合いではありません。限りある財源の中、今後の田原本町における公共施設を効果的かつ効率的に運営していくためには、行政だけではなく住民も共に「自分ごと」として取り組んでいく必要があると考えました。

報告書には、協議会での議論を重ねる中で出された意見が載せられていますので、町においては、全庁的な会議を設け、報告書の内容を十分に受け止めていただき、今後の公共施設の各種方針、計画の策定及び検討に活かしていただくことを望みます。そして、策定及び検討された内容を、私たちをはじめとする住民にフィードバックしていただきたいと願っています。

なお、本住民協議会メンバーは若年者が少なく、年齢層に偏りがありました。方針や計画を協議する際は、若年層の意見を汲み取るツールを検討・活用し、十分に意見を反映していただくことを望みます。

最後に、町の施策や取り組みが「自分ごと」として考えるきっかけをつくれるような場づくりが、今後も続いていくことを期待しています。

令和5年7月

田原本町住民協議会メンバー 一同

1. 「田原本町住民協議会」実施概要

○テーマ：公共施設のあり方

田原本町では公共施設の老朽化が進んでおり、建て替えや大規模修繕が必要となる時期を迎えています。しかし、今後すべての公共施設を、現在と同規模で維持し続けることは、町の財政状況や人口動態を鑑みると、困難であることが予想されます。そこで、私たちは田原本町における公共施設のあり方をテーマとして、公共施設をどうしていきたいか、住民目線で再編について協議しました。

○議論の進め方

「公共施設のあり方」の議論・協議をするために2つのステップを経ました。

ステップ(1) 施設レビュー：個別施設の現状把握および課題の抽出(1回)

田原本町の公共施設のうち、特に6施設(中央体育館、やすらぎ体育館、老人福祉センター、さわや交流センター、ふれあいセンター、町民ホール)を対象に、「施設レビュー」を実施。

施設担当課職員が「施設シート・事業シート(※)」を活用しながら各施設に関する現状を説明。

説明を基に、コーディネーターが音頭を取る形で、外部有識者2名が施設担当職員に質問をし、一問一答のスタイルで議論を行うことで、各施設の現状を把握し、論点や課題を列挙しました。

これらの議論を聞いた私たちが、2つの観点(「区分1:施設のあり方」、「区分2:施設の実施事業」)で、それぞれ「廃止」or「見直し」or「現状維持」を明確に判断し、各施設に対して評価を実施。

(※)各施設の耐用年数、活用方法、施設利用人数、費用全般が記載された現状を把握するためのシート

ステップ(2) 住民協議会：施設レビューで出た論点・課題を基に、私たちの目線で改めて協議(3回)

ステップ(1)の施設レビューでは、「外部有識者」が議論を実施しましたが、ステップ(2)では、「メンバー」である私たちが、既に出てきた各施設の論点・課題について、コーディネーターが議論をリードする形で、全部で3回にわけて協議を行いました。

施設ごとに、私たちの率直な意見、前提に囚われないアイデアを出し合い、町の公共施設について思いを巡らせました。単純に議論を発散させるだけでなく、協議会の最後には「改善提案シート」という形で、論点や課題に対する私たちの考え方を改めて記載し、振り返りも行っています。

また、個別施設の話のみならず、広く「町の公共施設全体」に対しても視点を持つためにも、「自分たちでできること」「地域でできること」「行政が担うこと」という観点で、「自分ごと化シート」に記載し、普段自分たちが利用する(できる)施設のあり方を見直しました。

○参加者

1) 協議会メンバー

無作為に抽出し案内を送付した数	1,000件
応募者数(応募率)	37人(3.7%)
参加者数 ※うち、無作為抽出36人(1人辞退)、 高校生2人	38人

※年代別内訳 (単位:人)

年代	男	女	合計
10代	2	2	4
20代	0	0	0
30代	1	3	4
40代	3	1	4
50代	1	1	2
60代	6	3	9
70代	5	6	11
80代以上	3	1	4
合計	21	17	38

2) コーディネーター (議論の進行役)

荒井 英明(一般社団法人構想日本 特別研究員)

3) 外部有識者(施設レビューのみ参加)

上村 敏之(関西学院大学 経済学部 教授)

岡田 直晃(神奈川県企業庁 財務部財産管理課 副主幹/国土交通省任命 PPP サポーター)

○テーマ及び各回の議論

- ・公共施設の課題整理(施設レビュー):令和5年3月18日(土)
 - ・「中央体育館」他5施設の施設レビューを実施
 - ・各施設の概要や現状の説明、施設のあり方・実施事業に対する評価など
- ・第1回住民協議会:令和5年4月22日(土)
 - ・「町民ホール」、「やすらぎ体育館」、「老人福祉センター」について議論、
「改善提案シート」の記入など
- ・第2回住民協議会:令和5年5月20日(土)
 - ・第1回会議振り返り
 - ・「中央体育館」、「さわやか交流センター」、「ふれあいセンター」について議論、
「改善提案シート」「自分ごと化シート」の記入など

・第3回住民協議会:令和5年6月17日(土)

・第2回会議振り返り

・「田原本町住民協議会報告書」素案を基に議論、「意見提出シート」の記入など

・メンバーからのこれまでの会議の感想

<施設レビューの様子>



<住民協議会の様子>



2.田原本町住民協議会での主な意見

本意見は、施設レビュー、ならびに住民協議会を経て出てきた議論内容を抽出してまとめあげたものであります。なお、具体的な施設別意見は、別冊にまとめています。

今回、議論を進めるにあたって、一部の施設については、具体的な維持管理費の積算根拠や、大規模改修費用の概要・内訳などが曖昧であることもあり、メンバーが判断をすることが難しかったこともありました。

今後、町の方針を決定する際、まずは町の考えを明確にして、住民に説明した上で、財源の試算や中長期的な財政計画等、判断材料の根拠を示し、住民との合意形成を進める必要があると考えます。

<私たちが考える公共施設再編について>

1) 将来的に改修や建て替えはしないで、施設が使える限り有効活用をする

→対象:やすらぎ体育館、老人福祉センター、さわやか交流センター

やすらぎ体育館、老人福祉センター、さわやか交流センターは建設から約40年以上が経過しており、老朽化が進んでいるため、近い将来に修繕や大規模改修が必要とされております。しかし、人口減少を要因とする税収減等が想定される今後の田原本町の財政状況を鑑みると、近い将来に発生する財政支出への対応が難しいことが想定されており、今後の施設のあり方について検討する必要性がありました。

施設レビューや住民協議会での協議を経て、上記3施設については「将来的に改修や建て替えはしないで、施設が使える限り有効活用をする」ことが望ましいと考えました。また、施設の廃止を先送りするのではなく、期限を設けた上で有効活用方法を検討すべきであると考えます。さらに、施設廃止後の跡地については、効率的で効果的な活用方法を検討していただきたいと思っております。

2) 施設は維持して、さらなる有効活用を図る

→対象:中央体育館、ふれあいセンター

中央体育館は開館後約40年が経過し、施設の老朽化が進んでいますが、田原本町のスポーツの拠点として、貸館のみならず、各種大会・教室に利用され、今後は国民体育大会の会場として利用する可能性がある施設でもあります。

また、ふれあいセンターは平成9年の開館以来、多くの住民に利用され、利用者の間で新たな交流や活動が生まれるなど福祉の増進に寄与している施設であるため、今後も住民の交流の場として必要とされている施設であると考えます。

そこで、私たちは施設レビューや住民協議会での協議を経て、今後、老朽化による改修や修繕等が生じたとしても、「施設は維持して、さらなる有効活用を図る」ことが望ましいと考えました。その際には、中長期的な管理計画を策定するなど、受益者負担の適正化等も含め、財源確保に意を用いて欲しいと考えます。

3) 施設は維持するが、機能の配置転換を行う

→対象:町民ホール

町民ホールは、住民が利用する身近な施設としての役割を十分に果たしている施設ではあるものの、役場本庁舎に隣接しており、立地条件としては大変魅力的であります。

そこで、町から住民のさらなる利便性向上を図るため、保健センター機能を町民ホールへ移転する提案がありました。

私たちは施設レビューや住民協議会での協議を経て「施設は維持して、機能の配置転換を行う」ことが望ましいと考えましたが、保健センターの移転については、移転によるメリットとデメリットをしっかりと整理することが必要だと考えます。

3. 公共施設の自分ごと化

公共施設は私たちのものでもあり、私たち自身が公共施設に対して、もっと興味・関心を持ったり、実際に利用してみたりと、自らアクションを起こすことが大切だと気づきました。これこそが「自分ごと化」であり、ひとつのひとりの小さなアクションが私たちの周りの人にも影響を与え、より効率的な施設の活用に繋がります。

また、地域単位でアクションを起こすことも重要だと思います。より多くの人数でアクションを起こすということは、より多くの人に影響を与えることができます。私たちの公共施設として、全住民が自分ごと化として意識することが望まれます。

ただ、「公共施設」という観点でいうと、私たちでできることには限界があります。やはり、行政の関与が必要不可欠だと考えます。行政側も、ぜひ自分ごと化として捉えていただき、公共施設の効率的な運営や将来的な公共施設のあり方等を十分に検討していただき、町にとっての最適解を導いていただきたいと思います。

ここでは、住民協議会を通じて、「自分たちでできること」「地域でできること」「行政が担うこと」を考えましたので、以下記載いたします。

・公共施設について私たちができること

1. 自らが広報媒体になり、積極的に情報共有・提供を行う
2. 施設やサービスを積極的に活用・利用する
3. 施設の美化に努め、誰もが使いたくなるような環境を保つ
4. 積極的に行政情報の収集を行い、町の現状把握に努め、問題意識を持ち続ける
5. 共有の施設や道具ということを意識し、大切に使う
6. サービスに対する適正な利用料を負担する
7. 住民のニーズを積極的に行政に伝える

・公共施設について地域でできること

1. 施設周辺の清掃活動を実施し、環境美化に努める
2. 自治会等の各種団体での施設利用を積極的に行い、施設の有効活用を図る
3. 地域でできる部分は積極的に担い、行政コスト削減を図る

・公共施設について行政が担うこと

1. 将来的な公共施設のあり方を見据え、管理計画を見直し、住民に対して方向性を具体的に、分かりやすく示す
2. 住民の目に留まる魅力的な広報紙の作成を行い、公共施設情報の発信を強化する
3. 安全・安心に利用できるよう、定期的な備品の入れ替えや周辺環境の整備を行う
4. 住民のニーズを把握する取り組みを行う